

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
小林大祐・山中千恵・島岡哉		shimaoka@jindai.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
織田 暁子		仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査演習 b	JNAa-130702-2	11人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

夏休みに実施した調査に基づき、後期は、コーディングと再調査を行っていく。ただし、テーマの選択によっては調査対象者の選定やインタビューの実施そのものが難航した学生もいた。指導教員としては、それぞれ、アポイントをとる→インタビューする→コーディング→追加調査→知見は何か、という作業と格闘しながら報告書にまとめることができた点は有意義であったと考えている。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

地域、身体、スピリチュアリティ、サブカルチャー——質的調査法からのアプローチ

2. 調査の内容／概要：

前期中に立てた調査計画に基づき、夏休みに調査を開始した。それに基づき、場合によっては調査地の追加、対象者の追加、質問項目の変更、地図や新聞などの文字資料の追加などを適宜加えた。本クラスは、統一テーマを設けていないため、後期は、ほぼ、1人1人の学生への個人指導の体制に入る。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

2でも記したとおり、調査の進展に従い、調査方法自体の変更や、資料の活用などを適宜、各学生に合わせて行った。

4. 主な調査項目：

統一テーマを設けていないため、本年は、地域、身体、スピリチュアリティ、サブカルチャーの4つの領域で、調査報告書が執筆された。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

主として半構造化インタビューに基づく手法を用いた。夏休みから現地調査を開始、後期に入り、データ収集状況に応じ、適宜、各学生のテーマに合わせた手法の変更等を行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2013年7月～2014年3月。調査地：福井県内各所、石川県金沢市、愛知県豊橋市ほか。調査員の数：11名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

本学は、地域密着型小規模私立大のため、調査対象者との間にラポールが形成しやすい傾向にある。そのためか、いわゆる「モデル・ストーリー」の採取で終わってしまうことがない。ある事象の背後にある意味の体系などまで迫る報告書も、数は少ないが、執筆させることができた点は評価できる。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

半構造化インタビュー。ライフ・ヒストリー法。過去の地図を用いた回想にもとづくインタビュー、など。各学生のテーマに応じて、データ分析と解釈を行っている。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

普段、大学（あるいはバイト先）にいるだけではわからない、他の世代や地域の方の考えや地域差、まったく知らない世界の意味の体系などを、書く報告書にて、学生の力量にもよるが、析出することができた。日常性に軸足を置きつつも、未知のあるいは不可視の事柄を記述することができた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2014年3月刊行済み。